

## 1. テーマ設定の過程

テーマ設定をするうえでまず思い浮かんだテーマが、以前から興味があった「地域の活性化」だ。そこからテーマを絞っていく時に私はまず調べていく地域を設定することにした。取材に行くことと自分の生活に近い地域にしたいという考えから、現在住んでいる宇都宮市にするか自分の故郷である岩舟町にするかの2つに絞った。そこで岩舟町を選んだ理由は、2つを比べたときに岩舟町の方が「活性化」という言葉が遠く感じるが、より必要なのではないかと考えたからだ。遠く感じるというのは住んでいて町の活気の無さを感じたからである。

次に地域の設定が終わったのでさらに細かいテーマの設定をしようと考えた。地域の活性化といっても活性化に成功した町というわけではないしとりあえず町の公式ホームページを覗いて私が注目したのは観光イベント案内というページである。ホームページを見るといわふねブランド<sup>1</sup>という地域ブランドがあったり「頑張る地域応援プログラム」<sup>2</sup>という計画に応募していたりしていたが、「地域の活性化」という言葉の個人的なイメージが観光やイベントと結びついていたのである。しかし観光イベントのページには年間予定が無かったりイベント情報も乏しかったりととても寂しく感じられた。そこで自分の中で印象のあるイベントを思い出してみると2つ思い浮かんだ。それが夏祭りとクリフステージという野外コンサートである。だが夏祭りのほうは確かに町全体では大きなイベントであるが、活性化の視点から見るとほかの近隣の町の夏祭りと比べて時に劣っていると言えるレベルである。そこで今回はクリフステージというイベントに的を絞った。また、これは町が主催のイベントだと思っていたが調べてみると NPO 法人が企画・運営しているとのことだったので、取材することでこうしたイベントを行う際の町との協力関係や自分たちは地域の活性化をどう考えているかを調べた。

## 2. 岩舟町について

まずここで岩舟町という場所についてふれたい。町の人口は 18,515 人、世帯数は 6,257

---

<sup>1</sup>岩舟の地域資源や特性を活かした商品。認定することで町内外に情報発信し、岩舟町の知名度向上、産業の一層の活性化を図る。

<sup>2</sup>総務省が平成 19 年度からスタートしたもので、地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方公共団体に対して財政支援措置を講じる。国からの財政支援措置は、1 市町村につき単年度 3,000 万円を上限として 3 年間まで(平成 21 年度まで) 特別交付税として措置される。

岩舟町 HP <http://www.town.iwafune.tochigi.jp/>(最終閲覧日 2010/7/3)。

宇都宮市の人口・面積など <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/gaiyo/shinogaiyo.html> (最終閲覧日 2010/7/3)。

世帯である(22年5月31日現在)。参考に宇都宮市と比較すると、宇都宮市の人口は509,860人、世帯数は211,478世帯(22年6月1日現在)で岩舟町が大きな町ではないことがわかる。また町人口のうち65歳以上の高齢者がH20年で23.8%を占めている。ちなみに町人口のピーク時はH7年の19,432人で当時の高齢者の占める割合は15.7%なので今と比べると人口の減少と高齢化が進んでいるのがわかる。また町の中は個人経営のお店が良く見られるがスーパーや近隣の佐野市のショッピングモールの存在などもあり、個人経営のお店は閉店しているところが多い。シャッター通りと呼ばれる通りも存在するほどでこういったところからも活気の無さが窺える。

一方で岩船山は映画『ICHI』をはじめロケ地としてよく利用される<sup>3</sup>。岩場もあるので特に戦隊もののロケは多く爆発音が聞こえてくることも多々ある。また最近有名なのが連作短編アニメーション『秒速5センチメートル』の舞台にでてきた岩舟駅だ。ファンがわざわざ訪れることもあるという。町に活気が無いと感じたことは事実だが、こういった面からみるとなかなか良い環境なのかもしれない。

### 3. クリフステージとは

次にクリフステージについて詳しく説明したい。まず夏祭りのように他の町のイベントと被らない大きなイベントと述べたが、具体的にはどのようなものなのか。

クリフステージとは岩舟町にある岩船山の採石場跡地で10月に行われている野外コンサートで、今年で10回目を迎える。メインの出演アーティストがいるが、そのほかに何組かの出演者がサブステージでそれぞれにパフォーマンスを行い会場を盛り上げる。そのため開場は昨年でいうと15:00から、終演は20:30と半日ほどのタイムスケジュールで行われている。メイン以外の出演者はさまざまであるが、トップバッターは毎年参加している地元の中学校の吹奏楽部だ。また、学生や町内の人間に留まらず他の町の団体からも出演の逆オファーがあるほど近年では人気がある。今までのメイン出演アーティストとしては以下の人たちがいる。

日野皓正・菊地雅章、鬼太鼓座、斉藤ノブ、夏川りみ、the brilliant green、Sowelu、

ナナムジカ、星村麻衣、大黒摩季、古謝美佐、佐原一哉、本田雅人、一青窈、etc

来場者数は例年2000~3000人くらいで、客層はアーティストにより異なるそうだが、基本的には町民が多くを占める。しかしその年によっては四国や東京など遠くから来場される方もいて、年々リピーターも増えているという<sup>4</sup>。また野外コンサートといえばスタンディングがあるのが一般的だがクリフステージでは前方にはパイプ椅子で、後方にはテーブル席があり、指定席のみの構成になっている。運営状況は1度だけ赤字の年があったが他は黒字だそうだ。

---

<sup>3</sup> 岩舟町観光協会 HP ロケ地岩舟 <http://www.iwafune-kankou.com/spot/location.html> (最終閲覧日 2010/7/3)。

<sup>4</sup> NPO 法人岩船山クリフステージ理事 加藤氏とのインタビューより(2010/6/26)。

#### 4. 町・町民との協力関係、そして町の活性化へ

しかしこのイベントのそもそものきっかけは現 NPO 法人岩船山クリフステージ<sup>5</sup>の理事である加藤氏が採石場跡地を通るたびに思っていた「自分の故郷であるここで何かをしたい」という単純な考えだった。加藤氏がインタビュー中に繰り返し言っていた言葉に「皆が協力的だった」というフレーズがあるが、始まりからまさにこの言葉通りだったようだ。加藤氏の考えを聞いた友人は「岩場を利用して野外コンサートが良い」と提案、数日後には音響や照明の専門の方を連れての視察を行ったそうだ。「その後も資金の出し合い、会場の整備、宣伝などほとんどの面でボランティアだったので町の人々が協力的だったのは本当にラッキーだった」と加藤氏は振り返った。会場整備は本番 1 週間前から始まるそうで有給を取って手伝ってくれる人も居るそうだ。

町との関係については、「町は最初から友好的で、近年は折からの不況でその額は減ったものの開催当初からずっと補助金を出していた<sup>6</sup>。駐車場が足りない場合には町の駐車場も提供してくれている」とのことで、「運営などには一切口出しをしないのでとてもやりやすく良い関係」とのことだった。

岩舟町活性化という観点から見たクリフステージの役割については「始めるときはそんなこと頭に無かった」とイベントの目的には無かったそうだ。しかし 10 年間続けてきたことによるクリフステージの認知度の高まりから現在ではそういったことも考えるようになったという。「10 年間続けてきてリピーターの方も増えてきて、岩舟町のパンフレットにも自然とクリフステージが載ったりして、何よりも町の人がとても楽しみにしてくれている。今ではこのイベントが町の活性化に繋がったら良いと考えているし、そのことは頭の片隅にずっとある。あくまでもそういう考えは後からついてきたもの」と、その考えの変化についておっしゃった。

#### 5. クリフステージを町の名物に

インタビューを通して一番印象的であったのは「活性化という考えは後からついてきたもの」という言葉だった。「地域の活性化」は前述したように観光やイベントによるもの、さらに言えばそれらは「地域の活性化」を目的とするといった目的ありきなものというイメージが強かった。そういったイメージから、調べ始める前は町が主体で行っている地域活性化目的のイベントなのだろうと思っていた。実際調べた後でも開催当初の目的は違っていたが、町の活性化に繋がるような要素を多く持つイベントであるということに変わりはないと思った。しかし町の人口からもわかるように高齢のお客が多いということであえてスタンディングスペースを設けなかったり、無理してイベントの規模を大きくしようとしなかったり、客層の大半を占める町民への配慮も忘れていない。また昨年からは屋台で使う容器は再利用できるタイプのもので統一しているとのことで、環境への配慮も考え

---

<sup>5</sup> NPO 法人岩船山クリフステージ HP<http://www.cliff-stage.com/index.html>(最終閲覧日 2010/7/3)。2003 年の設立までは 1999 年に発足した岩船山クリフステージ企画委員会が企画・運営を行っていた。

<sup>6</sup> 開催当初は 100 万ほど、現在は 80 万ほどとのこと。

ている。こういった金儲け主義ではないお客様やイベントを優先した考え方が結果的に町の活性化になるようなイベントを作り出しているのではないかと思った。町の協力もインタビューに行く前は正直非協力的なのでは、と思っていたので金銭面・運営面での援助があるというのは意外だった。しかしこのイベントが町の活性化に繋がっていく為には町民と町が協力できていることは大切なことなのだと思う。なにより良いな、と感じたのはボランティアでやっている方たちのイベントへの愛情で本当に好きでやっているというのがわかった。このような大きなイベントを成功させるにはスタッフの気持ちがひとつにまとまっていることも重要だと思う。

こうした大切なことが出来ているので地域の活性化を考えると今後はより町も積極的に宣伝活動をしたほうが良いと思う。町も積極的に宣伝活動をすることでほかの町での認知度も高まると考えられる。また、宣伝活動をしやすくするためにいわふねブランドのような公式の認定制度があっても良いと思う。その際にはいわふねブランドのように多くの商品を認定するような制度ではなく出来れば一つに絞った、つまりクリフステージのみを認定するといった形にしたほうが良いだろう。理由としてはここで色々なイベントを認定していくと結果的に手が回らないだろうし、町がどれを推したいのかがわからなくなるからだ。地域活性化を進めるうえで一つのイベントに集中するのは一種の賭けのようなものだと思う。成功も失敗もどちらの可能性も秘めている。しかしこの場合クリフステージは10年間続いていて結果も出しているので失敗の可能性はほぼ考えられないだろう。町はこのイベントが町民の手で長く開催されていることをとても幸運なことであると考えべきだ。そしてクリフステージを町の一大イベント、名物と捉えてサポートしていくべきだと考える。